

## 序 文

本書『エル ドゴ アルヘンティーノ ―知性と愛情溢れる美しきハンター―』の初版は2007年に発行されました。初版は、ドゴ・アルヘンティーノ・クラブ・ジャパン（Dogo Argentino Club Japan: D.A.C.J.）の設立5周年を記念して編集されたものです。2007年はドゴ・アルヘンティーノを作出した Dr. アントニオ・ノレス・マルティネス（Antonio Nores Martinez）の生誕100周年の年でもあり、また、現在における日本のドゴ・アルヘンティーノの基礎を築くために多くの貢献をし、すでにこの世を去ったハホームズ・アイク（Jajome's Ike）生誕10周年にあたる年でした。



ハホームズ・アイク（Jajome's Ike）

そして、それから6年が経過しました。私は本書の改訂版（第二版）を発行する必要性を数年前から感じていましたが、これは何せ労力のいる仕事で、今までおざなりになっていました。そして、2013年春、この労力のいる仕事に取り組むことを決意しました。

さて、どの犬種でもそうであるように、全ての犬種が大きさや容姿が異なるだけで、その起源的機能性について言及されない現状にあり、このドゴ・アルヘンティーノという知性と愛情溢れる勇猛果敢な犬種の将来もまた闇の中にあります。知識のない独善的見解を持つ人々、商売とそれにとまなう政治の渦巻く犬業界や団体から離れて、ドゴ・アルヘンティーノ・クラブ・ジャパンの代表として、また、カタナ・カザ・マヨール犬舎のオーナーとして、私はこの10年間、信念を貫き通してきたという自負を持ちます。

知識のない独善的見解を持つ人々は、国の内外を問わず、この犬業界には多くいるものです。その虚栄心は滑稽とも受け取られるものですが、一部に対する弊害を長期にわたり

もたらしめます。しかしながら、これは小さな弊害です。それに比べて、政治というのはとても厄介なもので、その影響は人々の間でのものにとどまらず、犬の性質や姿かたちにも影響していきます。アルゼンチンのドゴ・アルヘンティーノ・クラブもその中心人物たちが促進するモデルを政治に従い、改変しているのです。

アルゼンチンの重要人物たちが守り抜いてきたドゴ・アルヘンティーノについて、いくつかの例を紹介しましょう。古くはその重要な犬として、ティルカラ (Tilcara) がいました。



ティルカラ

(1st. World Ch. 1978, Gr.Ch.Arg. Ch. Int., Ch. Mexico Tilcara de Nores Martinez)

転換期としては、エストウケ・サンタ・イサベル (Estuque de Santa Isabel) がいました。



エストウケ・サンタ・イサベル

(Gr.Ch.Arg. Estuque de Santa Isabel)

ホラシオ・リベロ氏 (Horacio Rivero) を中心とした人々は、1990年にエストウケに最高のドゴ・アルヘンティーノとしての名誉ある賞を与えました。当時、150頭のドゴ・アルヘンティーノを集めたドッグ・ショーを行うなど、多くの動きはアルゼンチンの内陸部にありました。しかし、これらの賞はFCAのものではありません。アレハンドロ・マルセロ氏 (Alejandro Raul Morcillo) はFCA公式のタイトルとランキングを得るために1997年のベスト・ドゴ・アルヘンティーノを獲得するために、エストウケを内陸部のクラブから離脱させました。同時に数人の仲間が離脱しました。その中にはインディオ・デル・リトラル (Indio del Litoral) も含まれていました。このことでコルドバは二つに割れて、内陸部のドッグ・ショーはその勢力を失ったのです。



インディオ・デル・リトラル

(Int.Ch., Gr.Ch.Arg., Ch.Latin America Indio del Litoral)

1999年に、Dr. アントニオ・ノレス・マルティネスの起源的スタンダードから、FCIの公式スタンダードへの変更がなされました。そのため、FCAとともにフェルナンド・モレノ氏 (Fernando Moreno) が勢力を失い始めたとき、彼は内陸部のサポートを得るために、ホラシオ氏を探しました。このような混乱の中でアルゼンチンのドゴ・アルヘンティーノ・クラブは全国レベルを維持してきたのです。

2000年以降では、ボンボン・デル・ドン・アタ (Bombon del Don Ata) が内陸部で政治的に利用されてきましたが、そのこともまた、今は昔となり始めているのです。





ボンボン・デル・ドン・アタ (Bombon del Don Ata)

欧州では、アルゼンチンのクラブの代表であったバッソ氏 (Basso) を重視した政策が採られていたと私は推察しています。しかしながら、バッソ氏は 2005 年のブエノス・アイレスでの FCI ワールド・ドッグ・ショーを契機にその力を失い、現在、内陸部へとその関心を移しています。そして、2010 年 4 月には、世界のクラブをまとめる A.M.D.A. が組織され、第 1 回のワールド・スペシャリティーが開催されました。これも一つの政治です。



カマロテ II・デル・リトラル

(Working Male Class Winner & B.O.B., AMDA Camalote II del Litoral)

何とも厄介ですが、こうした政治やそれともなう商人から、私たちは自由でなければなりません。それには自分たちの知識を養い、目を鍛えること、そして広い心を持ち本犬種の未来を見据えることが大切です。本書はそのような目的を果たすために重要な役割を

果たすことであろうことを願って編集されました。ドゴ・アルヘンティーノとは何であつて何でないのか、それを少しでも知ることができたならば、という願いを込めて。

2013年4月24日 若島孔文

## 目次

序文	—————	P. 1
目次		
第1章 私の愛するドゴ・アルヘンティーノ	—————	P. 6
第2章 ドゴ・アルヘンティーノとは	—————	P. 10
第3章 スタンダードについて	—————	P. 43
第4章 ドゴ・アルヘンティーノの飼育	—————	P. 56
第5章 ドゴ・アルヘンティーノ・クラブ	—————	p. 98
第6章 世界のドゴ・アルヘンティーノ	—————	P. 131
第7章 ドゴ・アルヘンティーノと共に生きる人々	—————	P. 174
第8章 私がドゴ・アルヘンティーノのブリーディングにおいて考えること	——	P. 219
文献		
あとがき	—————	P. 361